

中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

横尾地区遺跡群 IV

県営ほ場整備事業横尾地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

1997. 3

群馬県中之条町教育委員会

中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

横尾地区遺跡群 IV

県営は場整備事業横尾地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

1997. 3

群馬県中之条町教育委員会

序

中之条町は、群馬県の北西部に位置しており、盆地、河岸段丘、丘陵地、山間部と地形の変化に富んだ自然豊かな環境にあり、また、国指定の重要文化財である日向見薬師堂や富沢家住宅をはじめとして、県指定、町指定の文化財や史跡に恵まれた町です。

近年、中之条町では土地改良事業などの開発に先立つ埋蔵文化財の緊急発掘調査がさかんに行われています。横尾地区のは場整備事業に伴う発掘調査は、平成3年度から実施しており、平成7年度は、桃瀬遺跡A区の調査を実施しました。当地は、町指定史跡である「桃瀬の水半」の近辺に位置し、以前から遺物の散布地として知られていましたが、発掘調査により、古墳時代から平安時代の住居跡などが検出されました。

今後は、調査によって得られた資料を保管・管理するだけでなく、有効に活用する方法についても積極的に検討したいと考えています。

最後になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご指導ご協力をいただきました関係各位に対して深く感謝申し上げます。

平成9年3月31日

中之条町教育委員会
教育長 中澤 恒夫

例　　言

- 1 本書は、県営は場整備事業横尾地区に伴い、中之条町教育委員会が平成7年度に実施した、桃瀬遺跡A区の発掘調査概要報告書である。
- 2 本遺跡は、群馬県吾妻郡中之条町大字横尾字豊岡に所在する。
- 3 桃瀬遺跡A区の発掘調査は平成7年8月9日から平成7年10月9日まで行い、遺物整理および報告書作成は平成8年度を行った。
- 4 発掘調査は、中之条町教育委員会が群馬県渋川土地改良事務所の委託を受けて実施した。
- 5 発掘調査は、渋川土地改良事務所からの委託金、国宝重要文化財等保存修復費国庫補助金、群馬県文化財保存事業費補助金及び町費により実施した。
- 6 調査組織は以下のとおりである。

教　育　長　　中　澤　恒　夫

社会教育課長　　富　沢　易　和

社会教育係長　　福　田　英　二

主　　事　　須　崎　幸　夫（調査担当）

- 7 本書の執筆及び編集は須崎幸夫が行った。

- 8 本調査における記録・出土遺物については、中之条町教育委員会において保管している。

- 9 調査ならびに本書の編集に際し、下記の方々にご指導ご協力をいただいた。

群馬県教育委員会 渋川土地改良事務所 株式会社測研 コーエイ株式会社 中之条町文化財専門委員

- 10 発掘調査作業員（敬称略）

青柳　七郎　伊東貞代子　入澤芳子　桜井文子　田村由美　宮澤美野留　生須　博　濱野住次　山本芳雄
鶴賀禎子　鶴賀宮子

目　　次

序

例　　言

凡　　例

報告書抄録

第1章　調査に至る経過	1
第2章　遺跡の位置及び周辺の遺跡	1
第3章　調査の方法と経過	1
第4章　基本層序	4
第5章　検出された遺構と遺物	4
第1節　竪穴式住居跡	4
第2節　その他の遺構	9
第6章　まとめ	11
付編　平成7年度実施の試掘調査の概要	12

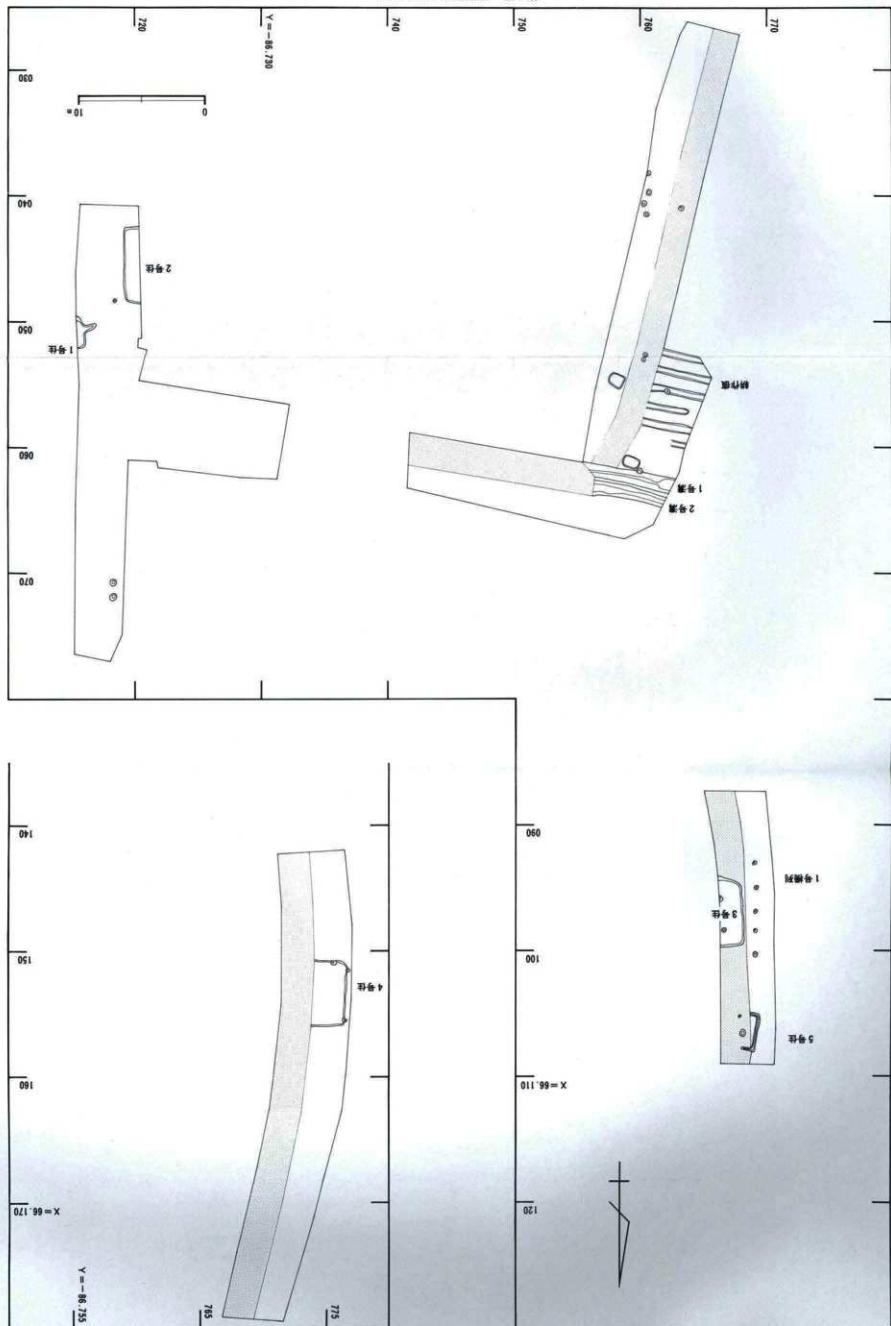
凡　　例

1. 遺物実測図中の断面基準線は標高で表し、方位記号は座標北を示す。
 2. 調査区全体図におけるスクリーントーンは、試掘トレンチの位置を示している。
 3. 遺構実測図の縮尺は次の通りである。
- 調査区全体図 1/300 住居跡・柵列跡・溝跡 1/60
4. 遺構・遺物写真的縮尺は統一していない。

報　告　書　抄　録

ふりがな	よこおちくいせきぐん						
書　名	横尾地区遺跡群 IV						
副　書　名	県営は場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報						
卷　次							
シリーズ名	中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	第17集						
編著者名	須崎幸夫						
編集機関	群馬県中之条町教育委員会						
所 在 地	〒377-04 群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町1091 TEL 0279-75-2111						
発行年月日	西暦1997年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コ　一　ド	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	° ° °	° ° °	m ²	
桃瀬遺跡A 区	群馬県吾妻郡 中之条町大字 横尾字堅岡	10421			19950809 19951009	850	県営は場整備
所取遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項		
桃瀬遺跡A 区	集落跡	古墳時代 ～ 近 世	竪穴式住居跡 5軒 柵列跡 1列 溝跡 2条				

第1图 桥墩灌注A区立体图



第1章 調査に至る経過

県営は場整備事業横尾地区は、中之条町の東部、名久田川の右岸に位置しており、約154haの面積を占めている。この地区には、奥山原遺跡、長久保遺跡などの周知の遺跡が多数存在しているほか、平成2年度に行なった本地区的分布調査により、埋蔵文化財の包蔵地が広範囲に及んでいることが明らかになった。このため、渋川土地改良事務所及び町農林課土地改良係と協議を行なった結果、道水路部分及び道構が破壊される切土部分については埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることになった。

第2章 遺跡の位置及び周辺の遺跡

中之条町は群馬県の北西部、吾妻郡の東部に位置する。中央部を四万川が、東部を名久田川が南流し、南部を流れる吾妻川に注ぐ。これらの河川の合流点付近には中之条盆地と呼ばれる山間盆地が発達している。また、上記河川の流域に数段の河岸段丘が発達し、吾妻川流域の河岸段丘上に中之条町、吾妻町の市街地が形成され、他の河川の河岸段丘上にも平坦面を中心とした住宅地や耕地が形成されている。

は場整備事業が実施される横尾地区は、中之条町の東部に位置する。地区南東部の低台地から、北東部の丘陵地に至るまで起伏に富んだ地形を有している。平成7年度に調査を実施した桃瀬遺跡A区は、中之条町大字横尾字堅岡に所在する。中之条市街地の北東約1.5km、国道145号線の西側に位置し、名久田川右岸の河岸段丘に桃瀬川を挟んで接する丘陵地の東側斜面に立地する。標高は360m前後。調査地の現況は主に畑である。

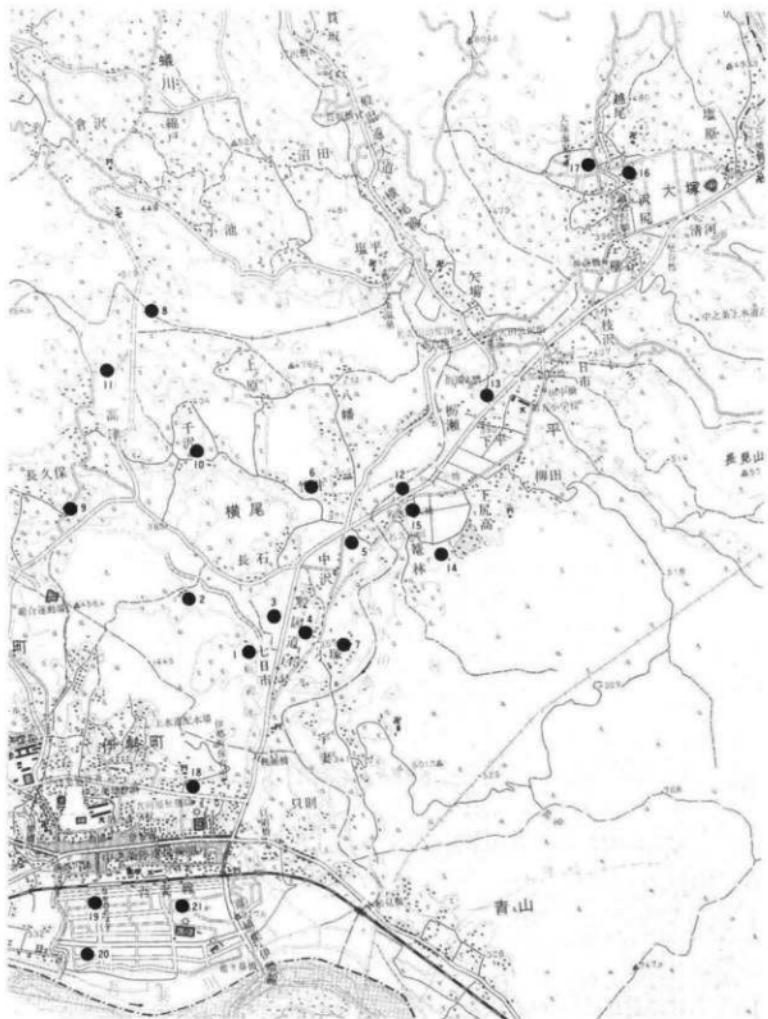
本遺跡周辺では、これまでにもは場整備事業の実施に伴い七日市遺跡(A・B区)、中沢遺跡(A・C区)、小塚遺跡、桃瀬遺跡B区が調査されている。いずれも名久田川右岸の河岸段丘上に立地しており、古墳時代から奈良平安時代の住居跡、F A下水跡などが調査されている。横尾地区ではこの他に、縄文時代の奥山原遺跡、古墳時代の集落跡とされる長久保遺跡、千沢遺跡、高津遺跡などが知られている。

さらに名久田川の下流域には、以前に調査された遺跡や周知の遺跡が存在している。名久田川左岸の平地区には、町史跡の樋塚古墳をはじめとする平古墳群のほか、縄文時代及び古墳から平安時代の下平遺跡や弥生後期から平安時代の下尻高遺跡、菅田遺跡等があり、やや上流の大塚地区には、縄文から平安時代の五十嵐遺跡、宿割遺跡等がある。また、吾妻川との合流点付近の伊勢町地区には、8世紀の天台瓦窯遺跡や弥生後期から中世の天神・川端・上原遺跡等が存在している。

第3章 調査の方法と経過

本遺跡については、平成6年12月14日から平成7年3月10日にかけて試掘調査を実施した。この試掘調査では、は場整備の事業計画に基づいて、新設される道路部分にトレッチを設定して道構の確認を行なった。これにより、3軒の竪穴式住居跡などが確認された。しかし、道構確認面としたローム層まで掘り下げた結果、削平してしまった道構もあった。

本調査は、平成7年8月9日から開始した。道構が確認された道路部分について、調査区を設定して調査を実施したが、調査区の設定に当たっては、既存の道路を残すことと、傾斜地における調査となるために安全性を考慮に入れて行った。従って、調査区域が極めて限定されることになった。

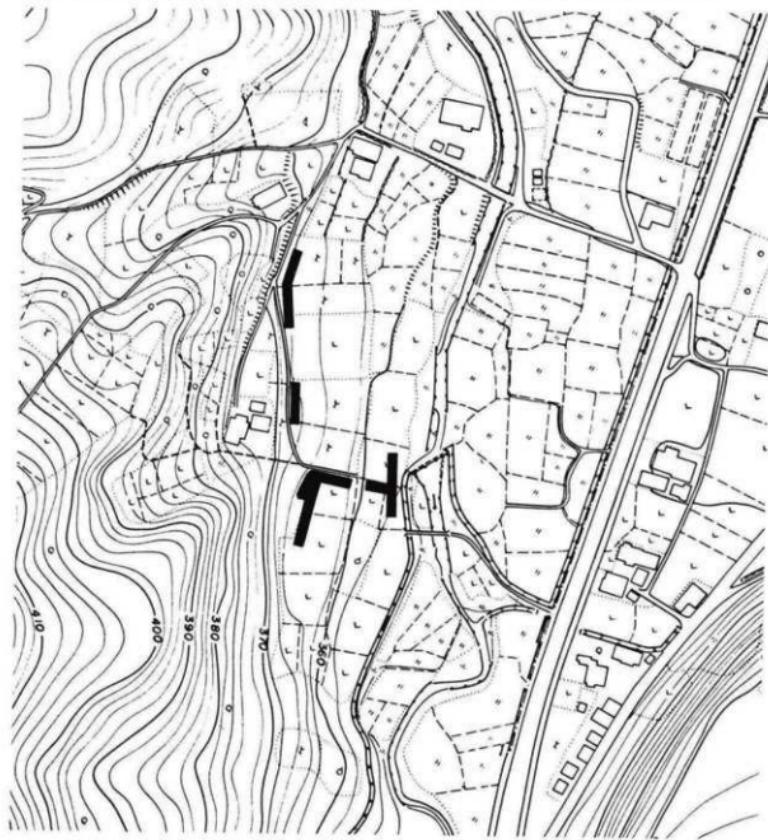


第2図 造跡の立地と周辺の遺跡(1/25,000)

- 1. 桃源道跡A区
- 2. 桃源道跡B区
- 3. 七日市道跡A区
- 4. 七日市道跡B区
- 5. 中沢道跡A区
- 6. 中沢道跡C区
- 7. 小原道跡
- 8. 斜山坂道跡
- 9. 長久保道跡
- 10. 千沢道跡
- 11. 高瀬道跡
- 12. 備塙古墳
- 13. 下平道跡
- 14. 下尻高道跡
- 15. 菅田道跡
- 16. 五十嵐道跡
- 17. 宿別道跡
- 18. 天台瓦窯道跡
- 19. 天神道跡
- 20. 川越道跡
- 21. 上原道跡

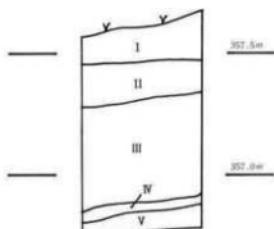
表土の掘削は重機で行い、その後、人力による遺構確認作業を行った。また、国家座標を基に測量杭を適宜設置したほか、水準測量を行い、ベンチマークを設置した。なお、測量杭の設置に際し、便宜的なグリッド配置は特別に行わず、例えば、 $X=66345$ 、 $Y=-86585$ の地点は345-585Gの様に、位置表示については、座標値の下3桁の数字を用いて表した。これは、広範囲に及ぶ横尾地区遺跡群のすべての遺跡に通用する呼称を得るためである。

検出された遺構については、覆土除去作業を行った後、平・断面図を作成し、あわせて、モノクロ及びリバーサルによる写真撮影を行った。遺構平・断面図は1/20で、調査区全体図は1/100の縮尺で作成した。調査の終了後には、再び重機により埋め戻しを行った。現場での調査は、平成7年10月9日に終了した。



第3図 桃瀬遺跡A区調査区設定図(1/2,500)

第4章 基本層序



第4図 土層推積図

- I 暗灰色土 B軽石を多く含む。現在の耕作土
- II 黒褐色土 F Aブロック(小)を微量、(中)を微量含む。バミスを微量含む。
- III 黒色土
- IV 明褐色土 ローム漸移層
- V 橙色土 ローム層

第5章 検出された遺構と遺物

第1節 竪穴式住居跡

1号住居跡

050・055-715Gに位置する。調査区の東端に接しており、形状及び規模については不明である。

ロームブロック及びF Aブロックを含む黒色土で床を貼っており、綺まりは良い。平坦ではあるが、南西コーナー付近は、若干落ち込んでいる。残存壁高は最大で22cmである。

かまどは西壁の南寄りに設置されている。袖下部がわずかに検出され、両袖とも袖石が残存する。燃焼部と煙道部とは段をなしており、壁外にのびる煙道部は緩やかに傾斜している。

遺物は少なく、土師器甕の底部破片などが出土している。

2号住居跡

050-715・720Gに位置する。調査区の西端に接しており、調査範囲は、住居全体の1/5程度である。形状及び規模については不明であるが、南北間で5.90mを測る。

F Aブロックを含む黒色土で床を貼っている。覆土も含めて土が湿っているため、床も軟弱である。残存壁高は、最大で30cmである。

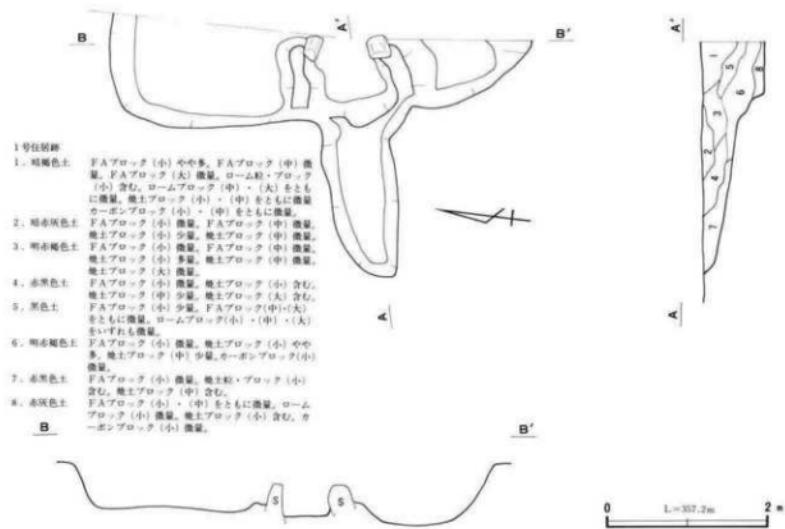
調査範囲内において、柱穴などは検出されず、遺物も覆土内から土師器片が数点出土した程度である。

3号住居跡

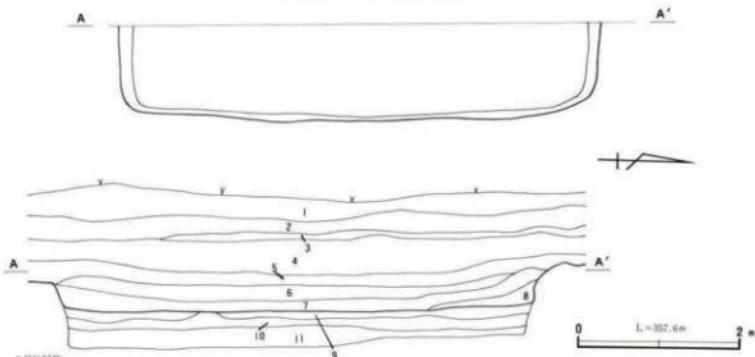
100-665Gに位置する。調査区の東端に接しており、住居西側の1/3程の調査である。規模は南北間で5.54mを測る。

ロームブロックを含む黒色土で床を貼っており、平坦で、全体によく縮まる。壁の立ち上がりはほぼ垂直であるが、南壁は崩落により緩やかになっている。残存壁高は最大で51cmである。柱穴は2本が検出されており、いずれも主柱穴である。

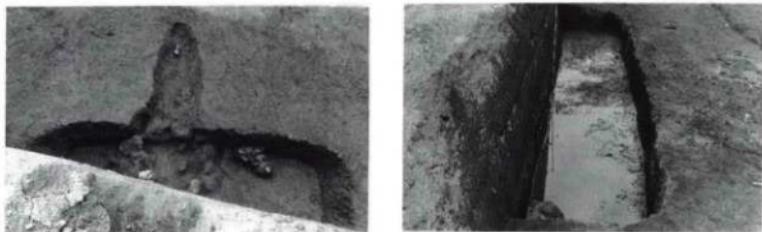
遺物は、土師器小型甕が出土している他は、ほとんどが土師器片である。



第5図 1号住居跡実測図

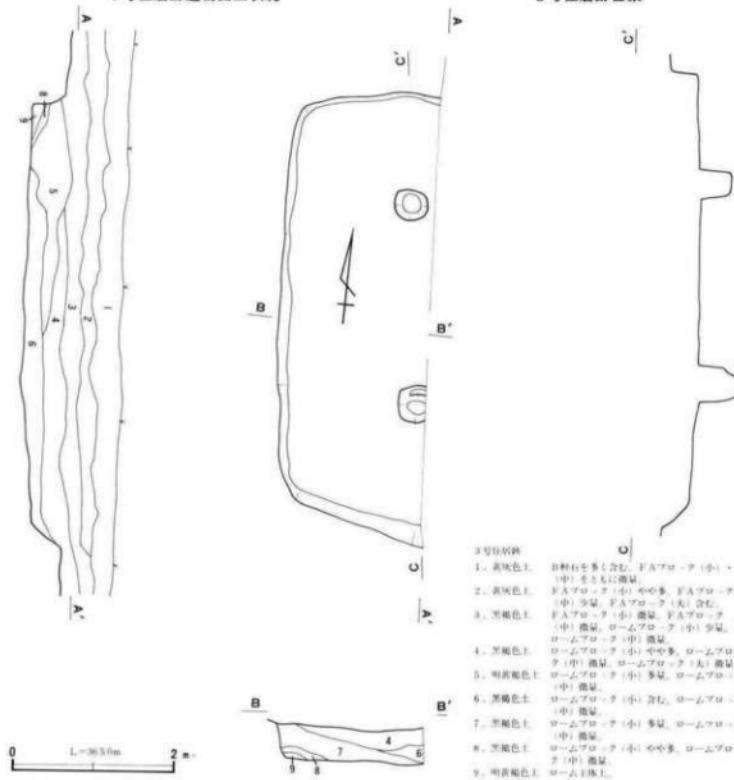


第6図 2号住居跡実測図



1号住居跡遺物出土状況

2号住居跡全景



第7図 3号住居跡実測図



3号住居跡全景



3号住居跡出土遺物

4号住居跡

155—770 Gに位置する。東半部分は、試掘調査時に削平されたため、全体の1/2の調査である。規模は南北間で5.18mを測る。

ロームブロックを含む黒褐色土で床を貼っており、平坦で堅く締まる。壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存壁高は最大で45cmである。柱穴は西壁と南壁に接して3本が検出されている。

遺物は、土師器壺のほか、土師器片、須恵器片が出土している。



4号住居跡全景



4号住居跡出土遺物

5号住居跡

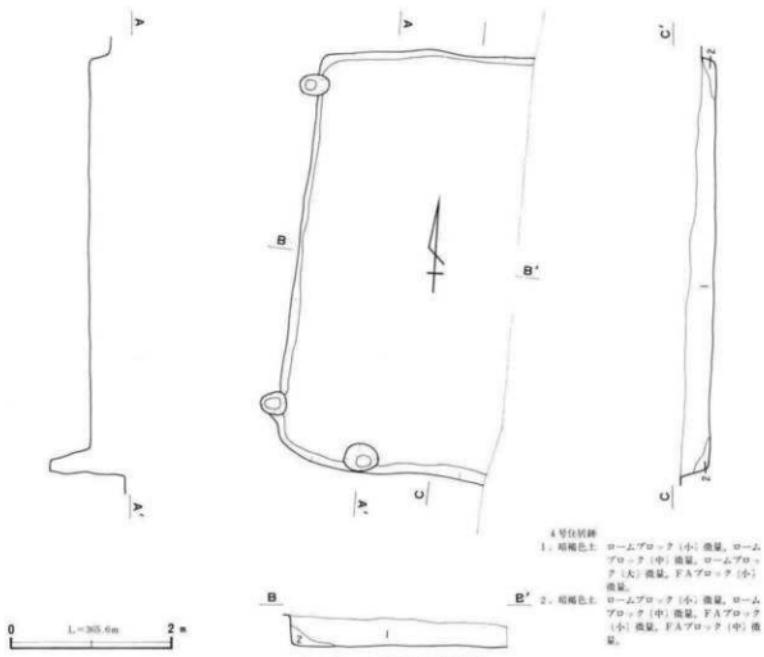
110—765 Gに位置する。住居跡の大半が試掘調査で削平されたため、西壁部分のみの調査となってしまった。形状及び規模は不明であるが、南北間で3.40mを測る。

ロームまで埋込んで床としている。残存壁高は最大で29cmで、周溝が一部検出されている。住居範囲内においてピットが2基検出されている。覆土の状態から住居跡に伴うものと考えられるものの、断定はできない。

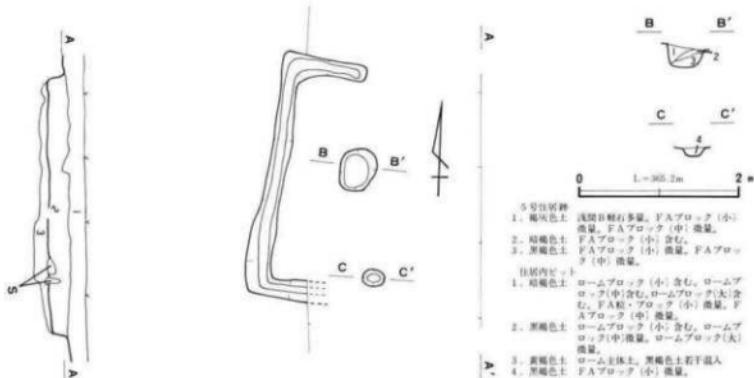
また、住居跡に伴う遺物も検出されなかった。



5号住居跡全景



第8図 4号住居跡実測図



第9図 5号住居跡実測図

第2節 その他の遺構

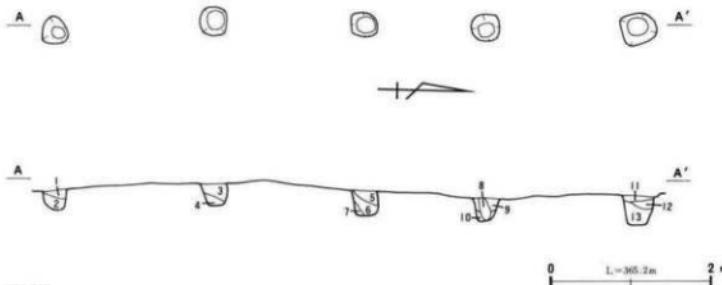
1号構列跡

100・110-765Gに位置する。5本の柱穴が検出されており、柱穴間は平均で1.80m、深さは平均で30cmである。西側が調査区外となるため、掘立柱建物跡である可能性も考えられる。

覆土は2~3層に分けられ、いずれもFAブロックを若干含んでいる。



1号構列跡全景



- | | |
|---|--|
| 1. 黄褐色土 ロームブロック(小)含む。FAブロック(小)少量。FAブロック(中)微量。 | 8. 黑褐色土 ロームブロック(小)や多。FAブロック(小)微量。 |
| 2. 黄褐色土 ロームブロック(小)含む。FAブロック(小)微量。 | 9. 黑褐色土 ロームブロック(小)多。ロームブロック(中)含む。ロームブロック(大)微量。FAブロック(小)微量。 |
| 3. 黄褐色土 ロームブロック(小)少量。ロームブロック(中)微量。FAブロック(小)微量。 | 10. 黑色土 ロームブロック(小)含む。ロームブロック(中)含む。ロームブロック(大)含む。FAブロック(小)微量。 |
| 4. 黑褐色土 ロームブロック(小)微量。FAブロック(小)微量。 | 11. 黑褐色土 ロームブロック(小)少量。ロームブロック(中)微量。FAブロック(大)微量。FAブロック(中)微量。 |
| 5. 黄褐色土 ロームブロック(小)含む。FAブロック(中)微量。FAブロック(小)含む。FAブロック(大)微量。 | 12. 黑褐色土 ロームブロック(小)微量。ロームブロック(中)微量。ロームブロック(大)微量。FAブロック(小)微量。FAブロック(中)微量。FAブロック(大)微量。 |
| 6. 黑褐色土 ロームブロック(小)含む。FAブロック(中)微量。 | 13. 黑褐色土 ロームブロック(小)や多。ロームブロック(中)微量。FAブロック(小)微量。 |
| 7. 黑褐色土 黒褐色土とローム土との混土。 | |

第10図 1号構列跡実測図

1号溝跡

070-755・760G及び065-755・760Gに位置する。東西方向に延びているが、一部が試掘調査で削平されてしまった。

断面の形状は、調査区の西端部のみ逆台形で、その他では2段となっており、上部が長方形の箱形で、底部はさらに方形の箱形を呈する。特に中央部南側で顕著なテラスを有しているが、東に向かうほど耕作による削平を受けている。このテラスには40~50cm大の礫が据えられていたほか、遺構確認面から覆土中層に至るまで大小の礫が多数検出された。

溝上幅は1m前後、テラスを有する部分の下幅は10~15cm、確認面からの深さは40cm前後である。

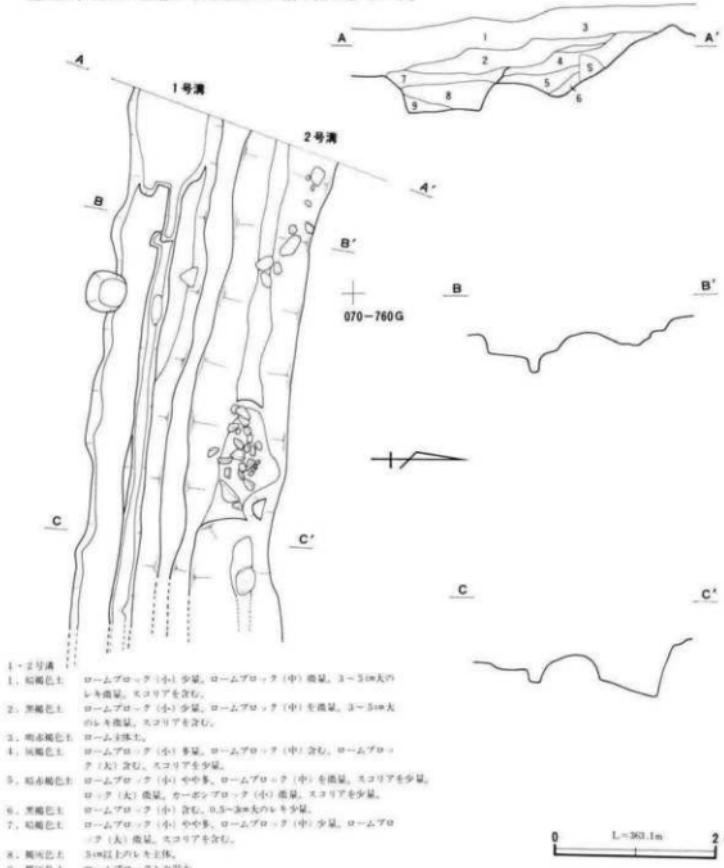
遺物は、覆土の上層から陶磁器片が出土している。

2号溝跡

070-755・760Gに位置する。1号溝に平行して東西方向に延びている。断面を観察する限りでは、1号溝よりも古い。断面の形状は、緩やかなU字型を呈する。

溝幅は、110cm前後、確認面からの深さは、40~70cm。底面から礫が検出されているが、平行する1号溝の様に復土にはほとんど礫は含まれていない。

遺物は、復土の上層から陶磁器片が数片出土している。



第11図 1・2号溝跡実測図



1号溝跡遺構確認状況



1号溝跡全景



1・2号溝跡全景

第6章　まとめ

桃瀬遺跡A区の周辺地は、以前から古墳時代の遺物の散布地として知られてきたが、今回の調査によって5軒の竪穴式住居跡などの遺構が検出された。住居跡の年代は、出土遺物により古墳時代中期から平安時代と考えられる。なお、住居跡の覆土内や遺構外の遺物として弥生時代後期、古墳時代前期に該当する土器片も出土していることから、当該期の遺構が遺跡内に存在する可能性はあるものの、この点については今後の調査を待つはかない。

ところで、本遺跡内には、町指定史跡「桃瀬の水牢」がある。水牢遺跡は、吾妻郡東部にのみ残る遺跡で、年貢等の取り立ての際に堀川の水責めに使用されたと伝えられ、中でも「桃瀬の水牢」は最も原型を残していると言われている。設置された年代は、戦国時代に斎藤氏が岩櫃城主であった頃とも近世初期の沼田藩真田氏が領主であった時代とも言われるが、古文書等の資料が残っていないため詳しいことは解っていない。

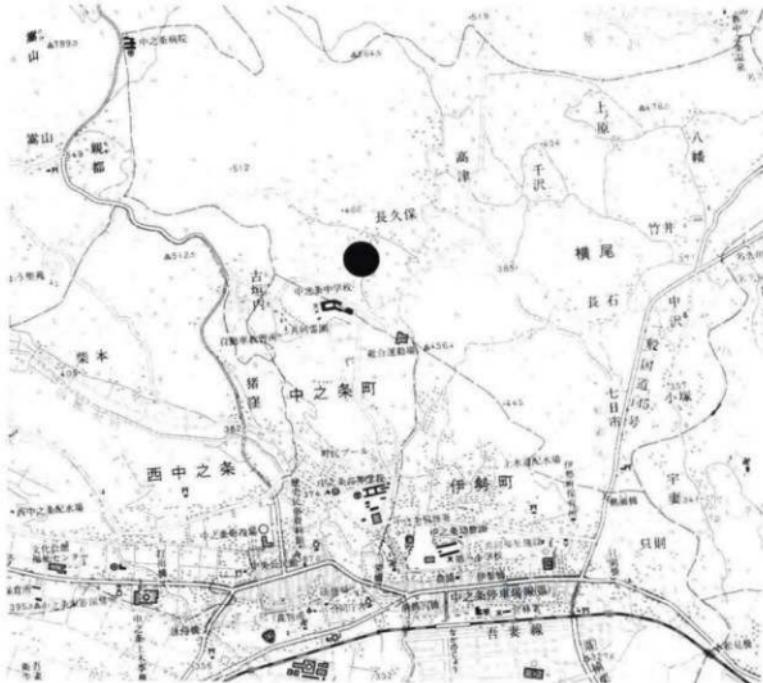
今回調査した1・2号溝は、この「桃瀬の水牢」の東側に接するように検出されている。遺構の検出状況からこれらの溝は、「水牢」遺跡に関連した施設とも考えられたが、今回の調査では、年代を特定できる遺物が出土していないため、「水牢」との関連については残念ながら不明である。

付編 平成7年度実施の試掘調査の概要

平成7年度には、県営は場整備事業横尾地区の事業実施に先立ち、本編で概要報告を行った桃瀬遺跡A区の本調査に加えて、平成7・8年度に工事が実施された区域について、遺構の有無及び範囲を確認するための試掘調査を国庫補助事業として実施した。

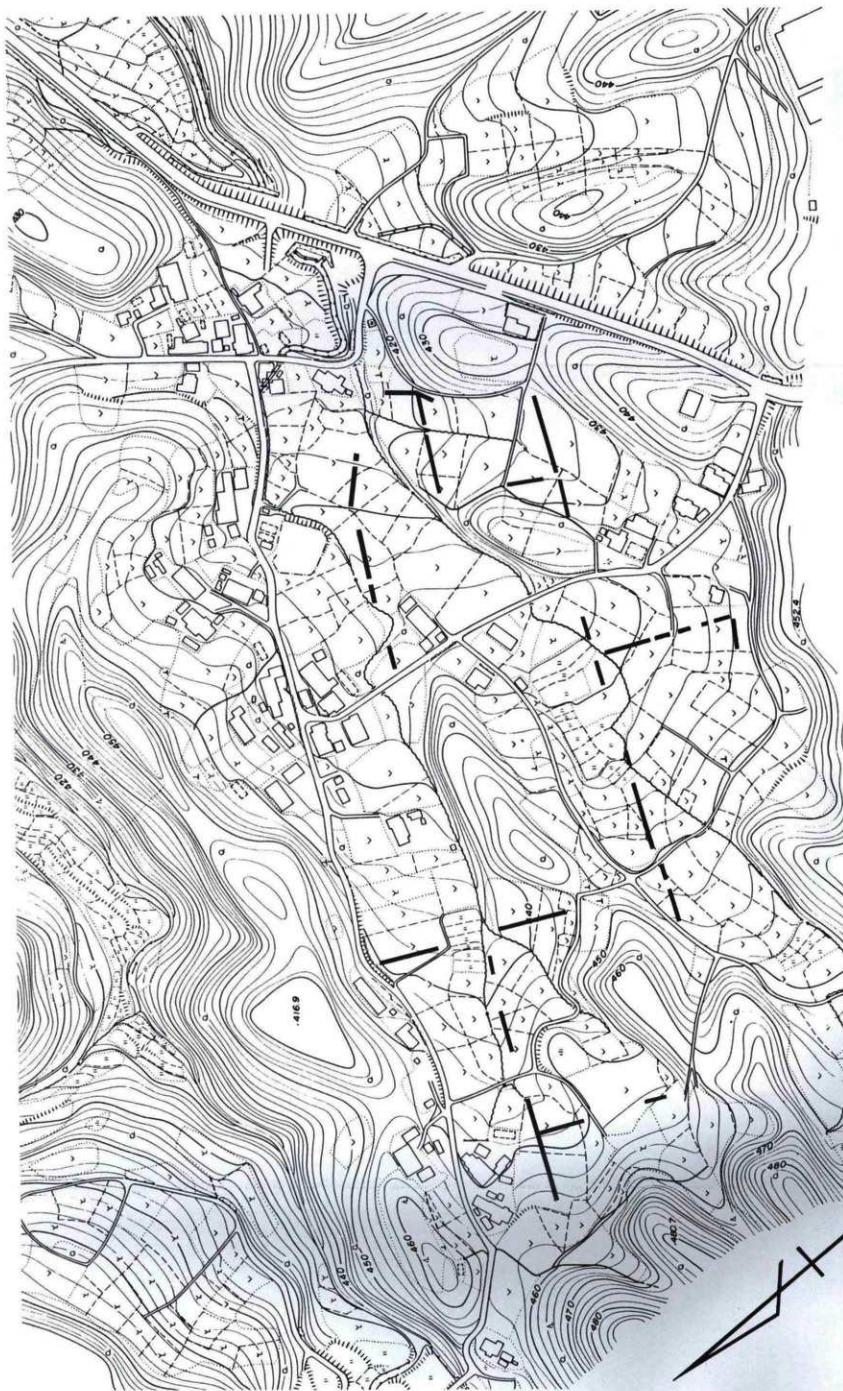
試掘調査を実施した地点は、中之条町大字横尾字長久保地内にある。この地は、横尾地区の南西部に位置し、東側を除く三方を低丘陵に囲まれた地域である。付近には、長久保遺跡として群馬県遺跡台帳に記載されている遺跡が存在するほか、平成2年度に実施した横尾地区における分布調査では、土器片も数片採取されている。こうしたことから、新規に設置される道・水路部分について、トレンチを設定して確認調査を実施することになった。

平成7年度中に工事が実施された東側部分については、平成7年7月7日から8月2日にかけて行い、8年度工事部分については、平成8年2月2日から3月27日にかけて行った。しかし、トレンチの平・断面において、遺構・建物は確認されなかった。



平成7年度試掘調査実施位置図(1/25,000)

レントチ数値図 (1/2,500)



横尾地区遺跡群IV

中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

平成9年3月25日 印刷

平成9年3月31日 発行

発 行 群馬県中之条町教育委員会

〒377-04 群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町1091

印 刷 大 道 印 刷 工 業